# HyperFlexのプロビジョニングおよび管理の自動化


- オーケストレーション ワークフローを使用した自動化，1 ページ
- HyperFlex の事前定義済みワークフロー，1 ページ
- ワークフロー デザイナでの事前定義済みワークフローの表示，3 ページ
- HyperFlex の事前定義済みワークフロー タスク，3 ページ
- タスク ライブラリを開く，5 ページ


## オーケストレーション ワークフローを使用した自動化

Cisco UCS Director に含まれているオーケストレーション ワークフローとオーケストレーション タスクを使用すると、一般的な VM プロビジョニング タスクと HyperFlex 管理タスクを 1 つまたは複数のワークフローに組み込んで自動化することができます。HyperFlex タスクに VMware ホスト タスクと Cisco UCS Manager の Cisco UCS タスクを結合する、ワークフローを作成できます。

タスクの実行に必要な権限に応じて、管理者によって Cisco UCS Director で実行されるワークフロー、またはユーザによってエンドユーザ ポータルで実行されるワークフローを作成できます。たとえば、ReadyClone VM をプロビジョニングするためのワークフローには、管理者権限が必要です。したがって、このワークフローをエンド ユーザが実行することはできません。

オーケストレーションワークフロー、オーケストレーションタスク、およびその他のオーケストレーションと自動化の概念についての詳細は、『Cisco UCS Director Orchestration Guide』を参照してください。

## HyperFlex の事前定義済みワークフロー

Cisco UCS Director には、HyperFlex 用に事前定義されたシンプルな一連のワークフローが用意されています。これらのワークフローは、ReadyClone VM の作成、データストアの作成などといった単一のタスクを実行するように設計されています。

より複雑なプロビジョニング タスクや管理タスクを自動化する必要がある場合は、事前定義済みワークフローのコピーを作成し、そのコピーにタスクを追加することができます。また、HyperFlex タスクを含む独自のカスタム ワークフローを作成することもできます。

（注） 事前定義済みワークフローを修正する必要がある場合、そのワークフローの新しいバージョンを作成して変更を加えることをお勧めします。デフォルトの事前定義済みワークフローを修正すると、アクション ボタンをクリックしたときの Cisco UCS Director での動作が影響を受ける可能性があります。HyperFlex システムに対して Cisco UCS Director で実行するアクション（データストアの作成やマウントなど）では、デフォルトの事前定義済みワークフローが使用されます。

たとえば、データストアの [マウント（Mount）] ボタンをクリックすると、Cisco UCS Director は HyperFlex データストアのマウント ワークフローを実行し、マウント アクションに対するサービス リクエストを作成します。

### 事前定義済み HyperFlex ワークフローの場所

すべての事前定義済み HyperFlex ワークフローにアクセスするには、[オーケストレーション（Orchestration）] に移動し、[ワークフロー（Workflows）] をクリックして、[HyperFlex] をクリックします。

### 事前定義済み HyperFlex ワークフローの一覧

事前定義済みHyperFlex ワークフローは、以下のとおりです。

- HyperFlex データストアの作成：指定された名前とサイズ（TB、GB、または MB 単位）のデータストアを作成します。
- HyperFlex ReadyClone の作成：所定の VM テンプレートから指定された数の ReadyClone を作成します。
- HyperFlex VM DV ポート グループの作成：TBD
- HyperFlex VM ポート グループの作成：所定のホストと vSwitch に VM ポート グループを作成します。
- HyperFlex VMKernel ポート グループの作成：TBD
- HyperFlex データストアの削除：指定されたデータストアを削除します。
- HyperFlex VM ポート グループの削除：所定のホストと vSwitch 上の VM ポート グループを削除します。
- HyperFlex データストアの編集：指定されたデータストアのサイズを変更します。
- HyperFlex Esxi ホスト アクション：ホストのアクション（スタンバイ、再起動、電源シャット ダウン）を設定します。
- HyperFlex Esxi ホスト メンテナンス モード：ESXi メンテナンス モードへの入出を切り替えます。

- HyperFlex ポート グループの変更：TBD
- HyperFlex VM ポート グループの変更：TBD
- HyperFlex VMKernel ポート グループの変更：TBD
- HyperFlex データストアのマウント：指定されたデータストアをマウントします。
- HyperFlex データストアのマウント解除：指定されたデータストアをマウント解除します。

# ワークフローデザイナでの事前定義済みワークフローの表示

**ステップ 1** [オーケストレーション（Orchestration）] を選択します。
**ステップ 2** [オーケストレーション（Orchestration）] ページで、[ワークフロー（Workflows）] をクリックします。
**ステップ 3** [HyperFlex] フォルダを展開します。
**ステップ 4** ワークフローのいずれかをダブルクリックして、ワークフローデザイナにそのワークフローを開きます。
**ステップ 5** ワークフロー タスクをダブルクリックして、そのタスクのプロパティを表示します。
ワークフローにタスクを追加するには、対象のタスクをワークフローにドラッグアンドドロップします。
また、ワークフローを実行したり、検証したりすることもできます。

# HyperFlex の事前定義済みワークフロー タスク

Cisco UCS Director には、VM をプロビジョニングしてデータストアを管理するワークフローを作成するために使用できる、一連の事前定義済みワークフロー タスクが用意されています。これらのタスクには、手動で実行する場合に構成しなければならない設定を反映した入力および出力が設定されています。

Cisco UCS Director タスク ライブラリには使用可能な HyperFlex タスクのリストがあります。また、各タスクの機能と入力および出力の説明も、タスク ライブラリに用意されています。

### 事前定義済み HyperFlex タスクの場所

ワークフローを開くと、[ワークフロー デザイナ（Workflow Designer）] の左ペインに事前定義済みの HyperFlex タスクがすべて表示されます。これらのタスクは、[物理ストレージタスク（Physical Storage Tasks）] > [HyperFlex タスク（HyperFlex Tasks）] にあります。

### 事前定義済み HyperFlex タスクの一覧

事前定義済み HyperFlex タスクは、以下のとおりです。

- HyperFlex データストアの作成：指定された名前とサイズ（TB、GB、または MB 単位）のデータストアを作成します。
- HyperFlex データストアの編集：指定されたデータストアに割り当てられているストレージの量を変更します。
- HyperFlex データストアのマウント：指定されたデータストアをマウントします。
- HyperFlex データストアのマウント解除：指定されたデータストアをマウント解除します。
- HyperFlex データストアの削除：指定されたデータストアを削除します。

（注） データストアを削除する前に、それをマウント解除しておく必要があります。

- VM の HyperFlex ReadyClone の作成：所定の VM テンプレートから指定された数の ReadyClone を作成します。
- HX Esxi ホスト メンテナンス モード：TBD
- ポート グループ入力の作成の検証：TBD
- ポート グループ入力の変更の検証：TBD
- vNIC の更新：TBD
- ポート グループの削除：vSwitch からポート グループを削除します。削除すると、そのポート グループに関連付けられていたすべての VM が、当該ホストのデフォルトのポート グループおよび vSwitch に関連付けられます。
- VMKernel ポート グループ入力の作成の検証：TBD
- DV ポート グループ入力の作成の検証：TBD

これらのタスクの中に必要な機能が見つからない場合は、高度なスクリプト機能を使用してタスクをカスタマイズすることができます。また、独自のカスタム タスクを作成することもできます。

# タスク ライブラリを開く

**ステップ 1** [オーケストレーション（Orchestration）] を選択します。

**ステップ 2** [オーケストレーション（Orchestration）] ページで、[ワークフロー（Workflows）] をクリックします。

**ステップ 3** [タスク ライブラリ（Task Library）] をクリックします。

**ステップ 4** カスタム タスクとオープン自動化タスクを含む新しいタスクでタスク ライブラリを更新するには、[ドキュメントの再生成（Regenerate Document）] をオンにします。

**ステップ 5** [送信（Submit）] をクリックします。

**ステップ 6** [HyperFlex タスク（HyperFlex Tasks）] 画面までスクロールダウンし、いずれかのハイパーテリンク付きタスクをクリックしてその詳細を表示します。

タスク ライブラリを開く